

## 小学生が和田堀池の生物を捕獲

11月2日午前9時、都立和田堀公園内の和田堀池（杉並区大宮2丁目）では、近隣の小学生100名ほどが参加して、生物の捕獲作業に取り組みました。この取り組みは、池を管理する東京都が水質浄化を目的に汚泥除去を行うために池の水を抜くことになり、近隣の小学校に声をかけて実現したものです。小学生たちは泥んこになりながらもタモ網などを使い約1時間の作業で、日本の在来生物のモツゴやスジエビ、さらに外来生物のアカミミガメなどを捕獲しました。

都立和田堀公園は、昭和39年8月1日に開園。面積は、およそ20万㎡で、善福寺川の豊かな緑とカワセミの姿も見られる和田堀池があり、多くの利用者が訪れます。和田堀池は、公園開園以前の昭和30年に人工的に作られたもので、面積は約5,200㎡、水深は70～80cmです。しかし、この池は数年前から富栄養化によるアオコの発生や水質悪化が問題となっていました。池は、多くの木々に囲まれているため、落ち葉が30cmほど堆積していて、そのことが富栄養化の原因だとわかりました。そこで、池を管理する東京都は、水質浄化のため汚泥除去を行うことにしました。



汚泥除去の作業にあたっては、池の水を抜く必要があります。こうした「かいぼり」も公園開園以来初めてのことで、近隣の小学生に身近な環境について学んでもらう機会として協力を呼びかけました。その呼びかけに、松ノ木小学校と大宮小学校が応じ、児童が参加することになりました。10月30日、善福寺川につながる水門を開け、池の水抜きを開始し、31日には大半の水が排出されました。

2日午前9時、地元の2つの小学4年生100名ほどが集合。それぞれタモ網やバケツなどを持って池に入り、ところどころに残る水たまりの魚や亀などを捕獲しました。大半の水は抜けているものの汚泥が堆積しているため、足を取られなかなか前に進まなかったり、全身が泥だらけになるのも構わずに夢中で捕獲する姿が見られました。約1時間の作業で、モツゴやスジエビ、アカミミガメなど多くの生物を捕獲しました。捕獲した水生生物は、公園内で展示した後、モツゴやスジエビなどの在来生物は池に再び戻されることになっています。参加した小学生は、「事前にかいぼりについて勉強をしていたので、どんな生物が捕獲できるのかワクワクしていました。思っていたよりスジエビなどの在来生物がたくさんいて、嬉しかったです。」と話していました。



### 【問い合わせ先】

都東部公園緑地事務所：電話03-3821-6964

総務部広報課：電話03-3312-6855 内線1502、1503